

近年ハウスシックの問題が言われるようになり、健康住宅とか自然素材住宅と称するものが増えてきたように思う。

私は以前より自分の設計のポリシーとして、常に安全性、健康に配慮した住まいづくりを実行してきたが、言葉だけが先行している現状に不安を感じる。本当に健康に暮らせる住まいとは、一体どんな住まいなのか。私は健康住宅には三つのポイントがあると思う。

一つは、素材の厳選である。ただ単に自然（健康）素材といっても多種多様だ。その中から本当によいものを選ぶという事。二つ目はその素材を単に使えばよいというものではなく、その特徴を活かして適材適所に使うということ。三つ目は、その空間設計

である。適度な温度や湿度、日当たり、明るさ、風通しのよさのある空間でなければ、せっかく自然素材を使ってもその良さが発揮できないのである。



K・Houseの主寝室

例えば、先ごろ竣工したK・HOUSEの場合、

- ・リビングダイニングの床は床暖房でもひびみにくい栗の無垢材のフローリング
- ・トイレや洗面所の床は水に強い竹のフローリング
- ・クローゼットの壁は、防虫効果のある桐材
- ・壁、天井、床下にはピュアウー

ルを使った羊毛断熱材を中に入れた。これは、湿度を調整する効果（調湿効果）があり、さらに有害物質を吸着する特徴がある。また、今回初めてドアの中にもこの材料を充填し、各室の防音効果と吸着効果を付加した。

・各階の床下には炭も敷いている。炭も調湿効果があるといわれており、上記の断熱材と一緒に使うことで相乗効果を高めた。

・壁と天井は珪藻土と無垢材（杉、スプルース）を使い分けている。珪藻土は調湿と有害物質の吸着効果があり、無垢材は安らぎをもたらす。

- ・地下の駐車場にも杉板を貼り、排気ガスに配慮した。
- ・各室は風通しと採光に配慮。特に風の通り道は幾通りにもなるようにした。

また、五月には施主の方のご好意によって、この住宅を

実際に見ながらのセミナーを催すことができた。実物を見ながらのセミナーということでは、来られた方々にとつてはたいへんわかりやすく実りが大きかったように思う。このように住まいに対する意識が高まってきていることは私にとつてもたいへん嬉しいことだ。次回は、バリアフリー住宅について、お話ししたいと思う。